

# 荷主と相互に理解深め

事例  
発表

## ダイセーエブリー24登壇

### 取引環境・長時間労働改善セミナー

【愛知】国土交通省は5日、名古屋市で荷主と運送事業者の協力による取引環境と長時間労働の改善に向けたセミナーを開き、ガイドラインの現状を周知した。2017年度のパイロット事業を受け持ったダイセーエブリー二十四（田中孝昌社長、愛知県一宮市）の根本尚経営企画部長が登壇し、事例を紹介した。

（梅本誠治）



平嶋隆司課長が「今いる従業員が長く働ける環境づくりや女性の活躍を促す対策を、どの業界でも進めている。出来る限り無理をしな

いたための知恵を絞り、話し合いによる意思疎通が大切だと理解して欲しい」と話した。

中部輸運局自動車交通部ガイドラインの現状を

周知

で、2017年度のパイロット事業を受け持ったダイセーエブリー二十四の根本氏が登壇し、パイロット事業への参加のきっかけや過程、結果について「荷主との関係が良くなり、自社も前向きに取り組むようになった」と評価した。

質疑応答では労働時間の短縮によるドライバーの収入減について質問が上がった。根本氏が「今回の事業で一番苦労した部分。一部持ち出して給与を上げたが、退職率の低下による採用広告費の削減で徐々に相殺されるようになってきた」と返答。

また、手待ち時間削減に向けた改善策として、「自社センターでは搬入の旗振り役を置き、改善できることから進める体制を取っている」と応じ、平嶋氏も「行政としても、今後も意見を聞かせて欲しい」と語った。